

報告

# 痴呆性高齢者のグループ回想法において家族と ケアスタッフが捉えた意味 —回想場面の映像から—

佐藤弘美 細川淳子 田高悦子\* 酒井郁子\*\*

高道香織 天津栄子 金川克子

## 概要

本研究は、グループ回想法実施の映像場面をもとに痴呆性高齢者の家族 3 組とケアスタッフ 11 名が回想法に見出す意味を抽出することを目的に面接調査を実施した。面接調査より、家族とケアスタッフが捉えた意味として抽出されたのは、1. 痴呆性高齢者に潜んでいた豊かな感情の表出や心理的安定がはかられている意味、2. 回想の刺激材料によって、ほとぼり出てきた過去の記憶を痴呆性高齢者が熱意をもって語る意味、3. 家族自身が高齢者とともに生きた人生を振り返る意味、4. 家族が高齢者との関係性を振り返り、つながりを見出す意味、5. ケアスタッフが痴呆性高齢者の能力を再発見する意味であった。

**キーワード** 痴呆性高齢者、グループ回想法、家族、ケアスタッフ、回想場面の映像

## 1. はじめに

今日、痴呆性高齢者への回想法は、急速に介護老人保健施設や老人福祉施設など臨床・実践の場に拡がり、多くの職種により様々な形式で実施されている。そのグループケアプログラムの効果をめぐっては、対象の特性（痴呆のレベル、年齢、性別など）やアプローチの方法、実施者によって様々である。われわれは、療養型病院と介護老人保健施設に入院・入所中の痴呆性高齢者を対象に回想法及びRO（リアリティ・オリエンテーション）を取り入れたグループケアプログラムを平成13年度より実施して、プログラム開発を行ってきた。痴呆性高齢者に対する多くの回想法の有効性が示されている<sup>1-5)</sup>が、実際のグループ回想場面の録画映像を用いて、効果を検証し、その意義を見出す試みはほとんど見あたらない。本研究の目的は、グループ回想法実施の映像をもとに痴呆性高齢者の家族及び現場のケアスタッフが回想に見出す意味を明らかにすることである。

## 2. 研究方法

### 2. 1 グループ回想法の実施方法

グループケアプログラムに参加するメンバーは、回想法を開始する時点において①改訂長谷川式簡易知能評価スケール（以後、HDS-Rと略記する）<sup>6)</sup>が軽度～中等度、②Clinical Dementia Rating(以後、CDRと略記する)<sup>7)</sup>が1～2、③著しい視聴覚障害がない、この選択基準にそって看護師長と共に選出した。グループ編成は、療養型病院グループの痴呆性高齢者6名に対して専門スタッフ4名（リーダー1名、サブリーダー1名、スタッフ2名；看護職ならびに介護職）であり、介護老人保健施設グループの痴呆性高齢者7名に対して、専門スタッフ4名（リーダー1名、サブリーダー1名、スタッフ2名；看護職ならびに介護職、作業療法士により構成）であった。

グループケアプログラムは先行研究の方法<sup>4)</sup>に基づき、週1回、1回1時間のセッションを連続8回実施した。プログラムの開催頻度については、1年間の中で連続8回実施するプログラムが2クール(春期と秋期)と、連続して実施しない期間は1ヶ月に1回1時間のセッションを定期的に実施している。グループケアプログラムの概要は表1に示す。回想のテーマ及び刺激材料は、表2の通りである。

\* 東京大学大学院医学系研究科健康科学

\*\* 千葉大学大学院看護学研究科

## 2. 2 回想場面の映像について（表3）

毎回のセッションはビデオテープに録画し、全体撮影1本、個人撮影2本を記録としている。本研究のために作成した回想場面のテーマは、個人、個人がじっくり語れるテーマで、これまでの回想法のなかから吟味して「昔、得意だったこと」を選んだ。家族とケアスタッフが視聴する回想場面は、3名の痴呆性高齢者が語っている部分のみを編集した。編集したビデオテープはケースAとBは10分で、ケースCは5分である。

## 2. 3 インタビューの対象

インタビューの対象は、3組の痴呆性高齢者の家族とグループケアプログラムのスタッフである。グループケアプログラムのスタッフとは、52回開催した回想法にスタッフとして関わった全員であり、療養型病院のスタッフ7名と介護老人保健施設のスタッフ4名の11名である。インタビュー対象は表4に示す

## 2. 4 インタビュー方法

痴呆性高齢者の家族3名には、平成15年11月（52回目）のプログラム（回想テーマ「昔、得意だったこと」）を編集した回想場面を視聴した後に、①この場面の感想を聞かせてください、②〇〇さんにとって過去の自分・思い出を振り返ってグループで話すことの良い点を聞かせてください、の2つの質問で約40分間の聞き取りを行った。インタビューを行う際には、受容的・傾聴的姿勢でかつインタビューに答えやすい時間と場所の配慮を行った。インタビュー実施者は、初回にB氏への家族のインタビューを1名の研究者が行い、その内容を研究者間で検討・吟味した。その上で他の2組の家族と11名のスタッフに対してはもう1名の研究者がインタビューを行った。インタビュー期間は平成16年2月～3月である。ケアスタッフへのインタビューは、療養型病院のケアスタッフ7名には、ケースAとケースBの痴呆性高齢者の回想場面を、介護老人保健施設のケアスタッフ4名にはケースCの回想場面を視聴後に家族と同様の方法でインタビューを実施した。

## 2. 5 データ分析

インタビューデータは全て逐語録を作成した。

- ① 逐語録の内容を3名の研究者で熟読し、ケース毎に対象者別に回想場面の感想と良かった点について語った内容をワーク

シートに取り出した。

- ② ケース毎対象別に語られた内容で、そのケースの特徴が現れている文脈を取り出した。この文脈を取り出していく過程で2つの内容に整理した。1つは「家族やケアスタッフが痴呆性高齢者の回想場面において痴呆性高齢者にとっての良い点として語った内容」、もう1つは「家族やケアスタッフが回想場面を振り返って見たことで語られた内容」である。
- ③ ①,②の分析過程を経て、家族やケアスタッフが回想に見出す意味として研究者らが解釈した意味を抽出した。

この作業においては、Hollowayら<sup>8)</sup>の提案している、信用可能性と確認可能性を高める方法を参考にした。

## 2. 6 倫理的配慮

痴呆性高齢者への研究の説明と承諾は、家族の代諾を得た。更に、研究について痴呆性高齢者に口頭で説明し、ビデオで撮影することについても参加者全員より口頭の下承を得た。痴呆性高齢者のプライバシーの保護として、個人の回想の画像のみに編集した。研究協力者としての家族とケアスタッフへは研究内容を説明し、インタビューの内容を研究として分析することの承諾書に署名をもらった。

表1 グループケアプログラムの概要

開始前日	: 招待状を渡す
00'・10'	: プログラム実施室への移動、集合
10'・20'	: 開始の挨拶、時事の話題をもとにしたRO (リアリティ・オリエンテーション)
20'・55'	: 回想テーマおよび刺激材料に基づいた回想への導入・展開
55'・60'	: 全体のまとめと次回の予告、出席カードへの記入、送迎
終了後	: 個人記録用紙に回想された主な内容を記入し、施設スタッフに伝える

表2 回想のテーマおよび回想刺激材料

回	テーマ	回想刺激材料
秋期 連続8回 (9月3日～10月22日)		
1回	自己紹介・シャボン玉	石鹸、ストロー
2回	家で飼っていた家畜	鶏・牛の写真
3回	銭湯の思い出	銭湯の写真と桶
4回	お彼岸の思い出	おはぎ、数珠
5回	運動会の思い出	鉢巻、パンくい競争のパン
6回	こめの収穫の思い出	稲穂
7回	秋の味覚	さつまいも、栗
8回	(通算51回目) 紅葉	県内の紅葉の名所の写真、落ち葉
インターバル期間 1ヶ月に1回 (11月14日、12月3日)		
通算52回目	昔得意だったこと	木登りの写真
通算53回目	年の瀬	年賀状、筆ペン

表 3 回想場面を編集した痴呆性高齢者の概要

ケース 入院・入所施設	痴呆性高齢者の 年齢・性別	回想開始前の HDS-R 得点 又は MMSE 得点(H15.9 時点)	回想テーマ「昔得意だったこと」 で語った内容
A 療養型病院	88 歳・男性	HDS-R10 点, MMSE24 点	剣道を教えていた
B 療養型病院	86 歳・男性	HDS-R 未実施, MMSE16 点	木登りしていた
C 老人保健施設	83 歳・女性	HDS-R17 点, MMSE16 点	かけっこが 1 番

MMSE:Mini-Mental State Examination

表 4 インタビュー対象者の概要

ケース	インタビューした家族	インタビューしたスタッフ (11 名)
A	長男の嫁	療養型病院看護師 2 名, 療養型病院介護職 5 名 計 7 名
B	次男, 次男の嫁	
C	長女	老人保健施設看護師 1 名, 介護職 2 名, 作業療法士 1 名 計 4 名

### 3. 結果

逐語録より、家族とケアスタッフが回想法について語った内容として、①家族・ケアスタッフが痴呆性高齢者にとっての回想について語った内容、②家族が痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容、③ケアスタッフが痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容の 3 つに分類した。そのインタビュー内容から回想法の意味を 5 つ抽出した。

#### 3.1 家族・ケアスタッフが痴呆性高齢者にとっての回想について語った内容とその意味 (表 5)

##### (1) ケース A

家族が回想場面の映像の感想として語った内容から、「やっぱり嬉しそうな顔して喋っている」「一生懸命喋っている」「じっくりと話したり、自分の思うことを喋ったり聞いたりできることはいいことだ」などを取り出した。

ケアスタッフが回想場面の映像の感想として語った内容から、「自分が熱意を持って話された内容は記憶にある感じ、回想法そのものはプラスの刺激になっている」「招待状をみてこころの準備をして、繰り返し大事にとって引き出しにしまっている」

「回想法の時は続けて言葉がすらすらでくる」「普段は少し痴呆があるように見えるけれど、回想法の時は見られずいい感じ」「自分の昔の一番いい頃の話はすごく楽しそう」「今回の場面では、はっきり楽しんでいる」などを取り出した。

##### (2) ケース B

家族が回想場面の映像の感想として語った内容

から「自分の生きてきた道をいきいきと喋っていた」「回想法があれば昔のこと思い出すし、そういう機会は絶対にいいね」などを取り出した。

ケアスタッフが回想場面の映像の感想として語った内容から、「自分の得意なことはしっかり喋る人」「仕事の話になると丁寧に話される。まじめやし真剣、一生懸命、質問に答えようとしているお話しで穏やかな表情になっている」「品物(写真など)を目の前に出すことでよりイメージが湧いてくるように思う」などを取り出した。

##### (3) ケース C

家族が回想場面の映像の感想として語った内容から「母親の昔話は初めて聞いた」「昔の話思い出しながら言うのはいいかもしれない」などを取り出した。

ケアスタッフが回想場面の映像の感想として語った内容から、「回想法のときも周りを見渡して話されているので他の人の言うことはわかってもらえる」「じっくり話を聞いた方が結構覚えておられて話されます」「内容を聞いてぽつんと話される」「グループでこういう話をする機会は C さんの記憶が蘇る手がかりになる」「割と得意げに話されている」「すごく楽しんで話されている」などを取り出した。

以上の 3 ケースにおいて、家族とケアスタッフが痴呆性高齢者にとっての回想について語った内容から、『痴呆性高齢者に潜んでいる豊かな感情の表出と心理的安定がはかられている意味』と『回想の刺激材料によってほとぼり出てきた過去の記憶を痴呆性高齢者が熱意をもって語る意味』を抽出した。

表5 家族・ケアスタッフが痴呆性高齢者にとっての回想について語った内容とその意味

	ケース Aについて語った内容	ケースBについて語った内容	ケースCについて語った内容
家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり嬉しそうな顔して喋っています。ひ孫をみてもあんなうれしい顔をします</li> <li>・自分が得意なことだから一生懸命喋っている</li> <li>・じっくりと話したり、自分の思うこと喋ったり、聞いたりできることはいいことだ</li> <li>・招待状をみては今度あるとか昨日あったとか教えてくれます。招待状は全部枕元にためてあります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で私と話すより表情はずっといい</li> <li>・後半は少し、自分のペースになった。最初はかしこまった感じ</li> <li>・自分の生きてきた道を生き生きと喋っていたよね</li> <li>・病室にいても周りの人と喋るわけがないし、グループの中にいると話している</li> <li>・回想法があれば昔のこと思い出すし、そういう機会は絶対にいいね</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の昔の話初めて聞いた</li> <li>・昔の話、思い出しながら言うのはいいかもしれない</li> </ul>
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が熱意をもって話された内容に関しては回想法が終わった何日か後でも、記憶ある感じ。回想そのものはプラスの刺激になっている。</li> <li>・招待状をみて、中身がどうこうより見てこちらの準備をして、繰り返し大事にとって引き出しにしまっている。</li> <li>・最初は何を聞かれるか不安げな感じだけれど、昔を思い出したように、忘れとったことでも次から次からふつふつと思い出して一生懸命言っている感じ。</li> <li>・話が割合広がっていったりとか、生き生きとした印象は受けます</li> <li>・普段は少し痴呆があるように見えるけど、回想法の時は見られずいい感じ</li> <li>・自分の昔の一番いい頃の話はすごく楽しそう</li> <li>・Aさんが言いたいことをどもりもせず、すらすら言っているAさんの話はいつもつたわるんだけど、今回の場面では、はっきり楽しんでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見てより確実に自分の頭のイメージができてるように話振りを聞いていて思う</li> <li>・品物を目の前に出すことでよりイメージがわいてくるように思う</li> <li>・ちょっとしゃきとした表情になる。</li> <li>・あまり自分で進んで喋る人ではないけれど、自分の得意なことはしっかり喋る人</li> <li>・話のきっかけで思い出すというより、写真を見た時の方が反応がよかった</li> <li>・話の中や自分の中でもまとまらないのか、口に出てこない感じが、ものを見てははと思われるのが多いかなと思う</li> <li>・自分から話す方ではないので、回想の場があって人に話せる場所があるってことはいい</li> <li>・仕事の話になると丁寧に話されるまじめやし真剣、一生懸命、質問にこたえようとしている。お話しただやかな表情になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人の表情を一生懸命みている</li> <li>・顔は何か恥ずかしそうな表情とかしているのがわかる</li> <li>・謙遜した表情ですね</li> <li>・居室でも周りの人のことを気にされている。回想法のときも周りを見渡して話されているので他の人の言うことがわかっておられる方だと思う</li> <li>・周りの方のお話を「そうやそうや」と聞いてあげている</li> <li>・居室でも自分から発言はしない人</li> <li>・じっくり話を聞いたほうが結構覚えておられて話されます。</li> <li>・皆さんの話の内容を聞いてぼつと話す。話の内容は割とはっきり覚えていて話を話される</li> <li>・グループでこういう話をする機会はCさんには記憶が蘇る手がかりになる</li> <li>・割と得意げに話されている。すごく楽しんで話されている</li> </ul>
意味	<p>痴呆性高齢者に潜んでいた豊かな感情の表出や心理的安定がはかられている意味</p> <p>回想法の刺激材料によってほとぼしり出た過去の記憶を痴呆性高齢者が熱意をもって語る意味</p>		

表6 家族が痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容とその意味

ケースA の家族 (嫁)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家ではお互いみんな仕事に行っていたからじっくりと喋ることはないですから、大人3人でご飯食べてテレビつけてテレビ見ながらの食事でした。</li> <li>・「年賀状」のテーマの回想法のあと、年賀状書くから持ってきてくれと本人がいうので病院から電話がかかって年賀状を持っていきました。その前の年は喪中だったので、お父さんも年だしもう出さないでやめてしまうかと思っていた。</li> <li>・50枚もってきたら殆ど書いてあった。</li> <li>・年賀状もっていても出すほどにならんと思っていたが、それが楽しみとなり、書かんなんっという気が起きればいいわと思っていた。</li> <li>・結構きれいな字で読める字だったもので、病院からも出してもらいました。</li> </ul> <p>随分真剣に宛名が書かれていた。年賀状は小さいのにあれだけ書けるとは思わなかった。だから、あの年賀状はよかった</p>
ケースB の家族 (息子と嫁)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我慢する人です。昔苦労したから私らの時代よりも一つ苦労しているから、なんて言うか、我慢してやってたことの方が多から</li> <li>・我慢するんやと思うわ。我慢強さっていったら全然ちがうわ。自分の意見を殺さないと生きてこれなかったんだと思う。おじいちゃんばかりでなく、みんなそうだったんだけど、特に強いんだと思う。</li> <li>・子供のころは朝5時半から6時には仕事にでていたから、あまり話さなかった。</li> <li>・父さんは、働き者だった。今と時代が違った。</li> <li>・2回ぐらい一緒に旅行したことはある。</li> <li>・これからというときにおばあちゃん（妻）が先に死んじゃった。</li> </ul>
ケースC の家族 (娘)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が生まれて育ったときに私のおばあちゃんは母が40歳の頃になくなった。子どもの頃は男は海で、女は機場という感じだった</li> <li>・私が小さい時は、ほとんど母親の実家に行っていてその子供のようにみんなでご飯食べていた覚えがある。箱のご膳でご飯すんだら箱のふたをひっくり返してお茶碗をみんなで洗ったそれこそ大家族だった。私ら小さい時はおやつに不自由したことはなかった。ジャガイモのふかしたのとか、春はいちご、秋は柿夏はスイカ、冬は芋の干したのをかじっていた食べるものに不自由したことはなかった</li> <li>・父親が漁師でうちに半分ぐらいおらんから、私は5～6年生のころから、(身長が)小さい母ちゃんやし、せつせと手伝いしていた。すごく厳しいところもあった。姑のいるところは苦労するから絶対いくなといわれた。母ちゃんはきついけど口には出さないけど、すごく思いやりがある。「おまえに年いってから面倒見てもらおうなんて思っとらん」とはっきり言っていた</li> <li>・中学校終わって高校行きたかったとき、父親は「女には勉強なかいらん」と怒ったが、母親は「行きたかったら行ったらいい、母ちゃんが出してやるら行け」と言ってくれた。その頃、にきびで花盛りの時母ちゃんが「女がそんな顔してどうする。嫁にいかれんぞ」といってクリームとローションを買ってくれた</li> </ul>
意味	<p>家族自身が高齢者とともに生きた人生を振り返る意味</p> <p>家族が高齢者との関係性を振り返り、つながりを見出す意味</p>

表7 ケアスタッフが痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容とその意味

ケースAについて語った内容	ケースBについて語った内容	ケースCについて語った内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話していることは的をえていて筋道というか順をおって話をされています。体調が上向きになったと同じくらい<u>回想法が刺激につながった</u>と思います。相乗効果をあげたと思います。</li> <li>・遠い昔のことで苦しいことでもそれなりの年齢になれば懐かしい思い出になる。そういう思い出を聞いてくださる方がいる、あるいは話できる場所があるということは本人にとっていい時間だと思う</li> <li>・この回想場面をみるとAさんは何をするのかという<u>ことを意識しておられ変わってきたなと思った</u></li> <li>・回想法が始まってからAさんはクリアになったと思う。今年は年賀状を書いたりとかすごくプラスになっている</li> <li>・教え子の面会の時に昔を思い出してしゃべっていた。昔の話はいいことと思う。自分がいやな部分も思い出すかもしれないけれど、<u>いい部分も思い出すと思うし何か線がつながるような気がする</u>。</li> <li>・過去を振り返っていくことはAさんにとって<u>考えが広がっていくような回想法の話で自分の中で思いついていくことがいい</u>。</li> <li>・自慢ということではないけど<u>グループの皆さんに聞いてほしいという部分も見える</u></li> <li>・振り返ると本人にはとても気持ちのいいもの自分の経験を人に話す。人に聞いてもらうことは満足感になっている。</li> <li>・このビデオみてあんなに長いこと話していることは驚きでした</li> <li>・普段はようやく一言二言返ってくるけど、<u>回想法の時は続けてするすると言葉が出てくる</u></li> <li>・病棟では今のAさんのこと尋ねるけど、<u>昔のことを中心に聞くとそれだけ違うのかなって感じる</u></li> <li>・グループで回想することもいいかなと思う。周りから援助されて思い出すこともあると思うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同室者の人と特に話される人ではなく淡々と過ごしている。その中で老人会（回想法の会の名称）という定期的なことが自分にとって行かなければ行けないものやという認識でいる。<u>自分はここに参加するものだという認識がある気がする</u></li> <li>・一生懸命考えたりとか思い出すとかされているからいいんじゃないかという気がする。</li> <li>・この回想法の機会がなかったら単調な生活になっていたと思う。Bさんは介護は必要ないので関する時間が少ない方でしたので、<u>回想法に参加してこちらからのケアを提供できてスタッフとして満足している</u></li> <li>・こま回しをあんなに集中してできたときは意外でした。できたときはすごくいい笑顔でよろこばれていました。<u>回想法を実施している時には見えない細かな表情の変化がこのVTRをみてわかりました</u></li> <li>・仕事のことはしっかり話す。最近わかったことですが、食事でお刺身や魚を食べる時にはこだわりのある言葉がきかれる。一本気なところのある方です。殆ど動かない人だから回想法にすることは自分の思っていることをきちんと<u>いっているのでもいいことだと思う</u></li> <li>・回想法でものを見た時「これはいい色や」とか「よくできている」とやっぱり職人さんらしい表現を聞く回想法が終わって帰る時もまたきたいなって感じ</li> <li>・いろいろな昔の話でこの人こんなことをしていた、こんなことしていたとかという発見が好きなんだという発見がある</li> <li>・グループで話すことは本人にすごく言い刺激で過去の仕事の話を聞くと「そんなあまいもんじゃない、大変だ」と言う</li> <li>・聞くことはきちんと聞いているとは思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんの発言をわりと良く聞いて、その中でぼつんと話されます。わりとはっきり覚えているような気がする。<u>グループメンバーの話を楽しみにしているのはあると思います。他の人の話を聞いて「ほやほや」と相槌をうっておられる</u></li> <li>・回想法はおわってから、どんな話だったかと聞くとCさんは割と思い出してくる</li> <li>・最初、病院からきた時はオムツでリハビリが進んで歩けるようになって紙パンツにして、日中は布パンツになった。トイの回数が増えて、腰を痛めて紙パンツになった。<u>最初は車椅子をこぐこともできなかったのがごぼるようになったし、歩けるようになった</u></li> <li>・Cさんは聞き上手って感じ</li> <li>・結構、記憶は鮮明だと思う。普段、回想法のときのように自分からいうことはあまりない。</li> <li>・ごちゃごちゃとあまり言わないけど思いはいっぱい持っている方だと思うんです。</li> <li>・このVTRみてお話ししていてやっぱりいいなあって思う。</li> </ul>
意味	ケアスタッフが痴呆性高齢者の能力を再発見する意味	

### 3. 2 家族が痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容とその意味（表6）

回想場面を見たケースAの家族は、「年の瀬」の回想において、年賀状の刺激材料がきっかけとなり、体調の不良や痴呆症状によってここ一年途絶えていた年賀状を見事に書き上げたことを語った。回想場面を見たケースBやCの家族は、対象高齢者の昔の仕事ぶりや自分がこの親にどのように育てられたかを家族自身がインタビューの中で回想していた。

これらの家族が痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容から『家族自身が高齢者と

ともに生きた人生を振り返える意味』『家族が高齢者との関係性を振り返り、つながりを見出す意味』を抽出した。

### 3. 3 ケアスタッフが痴呆性高齢者の回想場面を振り返ってみて語った内容とその意味（表7）

#### （1）ケースA

痴呆性高齢者ケースAの回想場面を見たケアスタッフは、「体調が上向きになったと同じくらい回想法が刺激につながったと思います、相乗効果をあげたと思います」「回想法が始まってからAさ

んはクリアになったと思う」「いい部分も思い出すと思うし何か線がつながるような気がする」「グループで回想することもいいかなと思う。周りから援助されて思い出すこともあると思うから」「振り返ることは本人にはとても気持ちいいもの、人に聞いてもらうことは満足感になっている」「普段はようやく一言二言返ってくるけど、回想法の時が続けてするすると言葉が出てくる」「このビデオみてあんなに長いこと話していることは驚きでした」などを取り出した。

#### (2) ケース B

痴呆性高齢者ケース B の回想場面を見たケアスタッフは、「定期的なことが自分にとって行かなければならないものやという認識がある気がする」「この回想法の機会がなかったら単調な生活になっていたと思う。回想法に参加してこちらからのケアを提供できてスタッフとして満足している」「こま回しにあんなに集中してできたことは意外でした」「回想法でものを見た時『これはいい色や』とか『よくできている』とやっぱり職人さんらしい表現を聞く。回想法が終わって帰るときもまたきたいなって感じ」などを取り出した。

#### (3) ケース C

痴呆性高齢者ケース C の回想場面を見たケアスタッフは、「C さんは聞き上手って感じ」「結構、記憶は鮮明だと思う。普段、回想法のときのように自分からいうことはあまりない」「ごちゃごちゃあまり言わないけど思いはいっぱい持っている方だと思うんです」などを取り出した。

以上のことから、ケアスタッフが痴呆性高齢者の回想場면을振り返ってみて語った内容から『ケアスタッフが痴呆性高齢者の能力を再発見する意味』を抽出した。

### 4. 考察

#### 4. 1 痴呆性高齢者に潜んでいた豊かな感情の表出や心理的安定がはかられている意味

痴呆性高齢者が自らの頭の中にあるものを自分自身で言語化する過程は、本人にとっても想起された内容にまつわる感情の呼び覚ましとなることが語られた。更に回想場面の映像をもとに、豊かな感情の表出がなされていると家族やケアスタッフが語ったと考えられる。

#### 4. 2 回想の刺激材料によって、ほとばしり出た過去の記憶を痴呆性高齢者が熱意をもって語る意味

グループ回想法の中で、刺激材料が媒体となつてほとばしり出てきた過去の記憶を家族もケアスタッフも実感として語っている。このことは、痴呆性高齢者の頭の中の記憶が呼び覚まされ、不意に口を突いて出てくるきっかけを得ることによって考えられる。痴呆性高齢者の自らの頭の中にあるものを自分自身で言語化する過程は、本人にとっても想起され内容にまつわる感情の呼び覚ましになっている。よって表情の変化として現れていると家族やケアスタッフが語ったと考えられる。

#### 4. 3 家族自身が高齢者とともに生きた人生を振り返える意味

痴呆性高齢者が回想することを画像を通して見た家族が、その場面に引きずられて自らのことを豊かに回想することがあった。画像を見ることを通して家族自身がじっくり、高齢者の人生を意識し自分の人生と重ね合わせともに生きた人生を意識することになったと考える。

#### 4. 4 家族が高齢者との関係性を振り返り、つながりを見出す意味

家族自身が高齢者とともに生きた人生を振り返りながら高齢者との関係性を振り返った内容の語りからは、痴呆によって現在の記憶が不安定であるが、高齢者が活躍していた頃の姿を想起するなかで、家族と高齢者のつながりの意味を見出したことにほかならない。

#### 4. 5 ケアスタッフが痴呆性高齢者の能力を再発見する意味

現場のケアスタッフにとっては、病棟ではみることのない痴呆性高齢者の表情や発言にグループ回想法の中で遭遇したことが、回想を行う中で痴呆性高齢者の能力を再発見する意味を見出している。回想法というグループケアプログラムの中にスタッフ自身が身をおくことで、入院や入所前の痴呆性高齢者の人生の一端に触れることになる。さらに現在の姿のみならず、痴呆性高齢者が自らの人生を振り返っている表情や言葉は、ケアスタッフがその人を理解する手がかりになると思われる。志村ら<sup>9)</sup>も同様に文献検討より、患者理解のための回想法の意義、患者と看護師の関係作りとしての回想法の意義を取り上げている。

Butler<sup>10)</sup>は、人間は高齢になるにつれて、過去を回想する頻度が高まるが、これは高齢者が自ら

歩んだ人生を振り返り、整理し、その意味を模索しようとする、自らの人生を振り返る普遍的な過程であると述べている。記憶を失いつつある痴呆性高齢者においては、回想法の刺激材料やグループメンバーとの交流によって、潜在している記憶が五感を通して呼び起こされて、会話や感情の表出がなされていた。その過程を、家族やスタッフが回想場面の映像を見て感じ取った語りから、回想の意味が抽出された。このことは、家族自身も失いかけていた痴呆性高齢者と共に過ごした記憶を呼び戻し、ケアスタッフにおいてはそれまで知らなかったその高齢者の豊かな一面を知ることができることに寄与することが示唆された。

## 5. まとめ

今回の研究は、グループ回想場面の映像を編集し、3組の家族と11名のケアスタッフにその映像から捉えた感想と回想法の良い点について面接調査を実施した。逐語録より、家族とケアスタッフが捉えた回想に見出した意味として、以下の5つがあげられる

1. 痴呆性高齢者に潜んでいた豊かな感情の表出や心理的安定がはかられている意味
2. 回想の刺激材料によって、ほとぼり出てきた過去の記憶を痴呆性高齢者が熱意をもって語る意味
3. 家族自身が高齢者とともに生きた人生を振り返る意味
4. 家族が高齢者との関係性を振り返り、つながりを見出す意味
5. ケアスタッフが痴呆性高齢者の能力を再発見する意味

今回の研究は、グループ回想法の一場面のみを対象として扱っているため、今後は家族やケアスタッフが視聴する回想場面の映像の吟味や家族とケアスタッフの面接調査の内容を検討して、実証的データの蓄積を行っていく必要がある。

## 謝辞

本研究において、インタビューにご協力いただきました、高齢者とその家族の皆様、病院・施設の

ケアスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。

これらは平成15年度～16年度科学研究費補助金基盤研究B2（研究課題番号15390682）「研究課題：痴呆性高齢者における回想法の意義と有効性に関する実証的研究」（研究代表者：金川克子）の助成を受けて行ったものである。

## 参考文献（引用文献）

- 1) 黒川由紀子：痴呆老人に対する回想法グループ, 老年精神医学雑誌, 5 (1), 73-81, 1994.
- 2) 野村豊子：痴呆性高齢者への回想法, グループ回想法の効果と意義, 看護研究, 29(3), 225-242, 1996.
- 3) 吉岡久美子：高齢者の回想(法)に関する展望, 九州大学心理学研究, 1, 39-49, 2000.
- 4) 田高悦子, 金川克子, 立浦紀代子他1名：在宅痴呆性高齢者に対する回想法を取り入れたグループケアプログラムの効果, 老年看護学, 5(1), 96-106, 2000.
- 5) 松田修, 黒川由紀子, 齋藤正彦他1名：回想法を中心とした痴呆性高齢者に対する集団心理療法—痴呆の進行に応じた働きかけの工夫について—, 心理臨床学研究, 19(6), 566-577, 2002.
- 6) 加藤信司, 長谷川和夫, 下垣光他5名：改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)の作成, 老年精神医学雑誌, 2, 1339-1347, 1991.
- 7) Hughes CP, et al: A new clinical scale for the staging of dementia, Br J Psychiatry, 140. 556-572, 1982.
- 8) Holloway I, Wheeler S: Qualitative Research for Nursing, Blackwell Science Malden, USA 1996.  
(野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門—研究方法から論文作成まで 172-179, 医学書院, 2000.)
- 9) 志村ゆず, 唐澤由美子, 田村正枝：看護における回想法の発展をめざして：文献展望, 長野県立看護大学紀要, 5, 41-52, 2003.
- 10) Butler R.N.: The life review; An interpretation of reminiscence in the aged. Psychiatry, 26:6 5-75, 1963.

(受付：2004年9月30日，受理：2004年12月20日)



## Significance Perceived by Family Members and Care Staff in Group Reminiscence Applied to Demented Elderly

### —Through Images Captured During Reminiscence—

Hiromi SATO, Junko HOSOKAWA, Etsuko TADAKA, Ikuko SAKAI, Kaori TAKAMICHI,  
Eiko AMATSU, Katsuko KANAGAWA

#### Abstract

Three families and 11 care staff were interviewed in an attempt to extract the significance perceived from imaging of reminiscence scenes involving the demented elderly for whom a group reminiscence method was applied. The significant findings were: ① the expression of rich emotions and the psychological stability hidden within the mind of the demented elderly; ② the passion with which the demented elderly talked about their memories that poured out when simulating material was used for the reminiscence; ③ family members looking back on the days when they lived with the elderly; ④ reflection by family members on their relationship with the elderly and rediscovering their ties with each other; and ⑤ rediscovery by the care staff of the recall capacity of the demented elderly.

**Key words** demented elderly, group reminiscence method, family, care staff, imaging of the reminiscence scene